

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2010年1月25日

## 1. 概要

実践団体名	なでしこ防災ネット		
連絡先	090-6941-7303		
プランタイトル	災害時の水の確保「生活と水」 秦野盆地湧水群非常時活用マップ作成		
プランの対象者	中学生, 高校生, 地域住民, 社会人・一般, 女性, 高齢者	対象とする 災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

炊事、洗濯、入浴、水洗トイレの水など、飲料水の確保と同様に、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことは重要なことであると考え、湧水・井戸を現況把握した防災マップを連携12団体、障害者、中・高校生らと作成し、地域防災に役立てる。また、点訳し、点字マップも作成して視覚障害者や施設などに配布する。防災意識の啓発や家庭での備えなど家族の防災力の向上から災害に強い社会づくりに結びつける。

作成したマップを使っての出前講座や「災害時協力井戸湧水の家」の看板設置運動、保全活動等を行うところまで活動を展開する。秦野市は豊富で良質な湧水が多い。地の利を活かしたプラン。

### 【プランの概要】

- ・湧水箇所、水場を現況把握した防災マップを作成する。点訳し、点字マップも作成する。
- ・湧水・井戸水調査会の設置  
秦野市立西中学校、地域住民、連携12団体、行政などから調査会を作り、湧水、井戸水、水場探し調査のリーダーとしてマップ作成活動を展開する。
- ・調査資料をもとに、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことの重要性や水資源環境の保護や維持する意識への学習会や講演会(手話付)、フィールドワーク、ワークショップなどを実施する。

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・「もしもの時の災害時協力井戸・湧水マップ」を地域に提供することにより、防災メッセージが発信できる。
- ・マップ作成に取り組むことによって、地域との連携が更に深まり、地域とともに非常時の生活用水対策を構築して災害に強い街づくりが期待できる。
- ・防災教育効果と共に、水資源の重要性や地域の水環境を理解させることは、環境を保護する意識醸成のためにも有効な手段である。
- ・大地震や台風などの自然現象は、人間の力では食い止めることはできないが、災害による被害は我々の意識により減らすことが可能である。災害発生時に自己の安全を確保し、中学生として周囲のために何ができるかを考えることで、ボランティア活動への理解と、社会の一員としての意識を育てることができる

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	災害時協力井戸・湧水調査会の設置	中学校、地域、連携団体、市役所等に協力依頼	災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊の結成。現状調査をしてマップ作成活動を展開する。
5月	意識調査と協力依頼	情報収集とPR活動	災害時における井戸・湧水協力者探し 意識調査と協力依頼 PR 活動
6月	学習会、ワークショップ開催	ボランティアの募集 連携団体打合せ	6/13 防災講習会 家庭での災害時の生活水の確保
7月	井戸・湧水所有者に協力依頼事前通知郵送	ボランティアの募集 連携団体打合せ	7/3 地域の水場探しと水場清掃活動開始 7/23 湧水地の見学会、「上水道のしくみ」 浄水場・取水地見学会など
8月	回答がきた119件のリスト作成	地図落とし	8/21～22ジャスコ秦野店にて防災や水に対する意識調査と掲示及び啓発活動 実習「お風呂の水を利用してビニール袋でご飯を炊こう」
9月	井戸・湧水の現地調査開始	ルート確認、道案内や車の手配、調査人数の確認	非常時に使用可能な井戸・湧水の状況調査60件訪問(使用状況と位置確認、写真撮影)
10月	災害時における井戸・湧水協力者一覧表作成(協力は108件)	ルート確認、道案内や車の手配、参加人数の確認	非常時に使用可能な井戸・湧水の状況調査119件訪問 10/12 神奈川県総合防災センター体験学習
11月	災害時協力井戸・湧水マップの作成に取り組む	岡山県立岡山一宮高校に GIS 地図作成依頼  日程打合せ  本部にアドバイザー依頼	11/3 風呂水等を使用しての非常食の作り方。ペットボトルで浄水器作成、 11/18 室川源流・湧水探しと水場清掃 11/23 講演会「地下水利用現状と災害時利用の可能性」 11/29 プランの進め方＝中川和之氏
12月	地域用とリーフレット形式の2種類作成	点訳、手話、録音依頼	災害時協力井戸・湧水マップの作成に取り組む
1月	障害者向けの触地図、点訳「災害時協力井戸・湧水マップ」の作成	危険物安全協会、秦野市との打合せ 展示・防災コーナー準備 ボランティアの募集	1/15 防災講演会秦野市と共催 作成した「災害時協力井戸・湧水マップ」の紹介と展示
2月	防災講演会の手話通訳録画・録音 DVD 編集	開催場所交渉、看板、資料の作成 掲示物、アンケート準備 防災普及教材作成	2/9～14の5日間ジャスコ秦野店にて作成した「災害時協力井戸・湧水マップ」の展示とPR

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 3. 実践したプランの内容と成果

### 【実践プログラム①】

タイトル	災害時の水の確保「生活と水」 秦野盆地湧水群非常時活用マップ作成
実施月日(曜日)	4月～2月
実施場所	公民館、サポートセンターはだの、市役所会議室
担当者または講師	団体内スタッフ:11名 外部スタッフ:秦野市役所5名、連携12団体36名、秦野市立西中学校7名 講 師 :中川和之(時事通信 web 編集長)
所要時間または「コマ数×単位時間」	4月～8月 1回/月×3h=15h 9月～12月 2回/月×4h=32h 1月～2月 4回/月×4h=32h
プログラムのカテゴリ、形式	マップ作成
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり、災害に強い地域をつくる
達成目標	防災普及教材として 「もしもの時の災害時協力井戸・湧水MAP」地域用、リーフレット形式、 触地図、点字に編集した3種類作成
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	4月～8月 災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊の結成 防災、水資源、水環境についての調査、勉強会、情報収集 9月～10月 現地状況調査(障害者も参加) 11月～12月 マップ編集会議、検討会、イラスト作成 1月～2月 1/15 防災講演会時配布、意見・感想聴衆 再度協議、編集会議後、修正、完成
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	地域、秦野市立西中学校、行政、12連携団体、郵便局OBと作成。 災害時における井戸・湧水協力者一覧表(秦野市) 岡山県立岡山一宮高等学校に地図作成依頼 刊行物、新聞切抜き、インターネットなどから資料抽出
参加人数	300名
経費の総額・内訳概要	謝礼、コピー代、コピー用紙、印刷製本代、インクカートリッジ、写真、事務用品など=8万円
成果と課題	【成果】各自治会が「水」対策を真剣に協議検討するようになった 【課題】日ごろの備えの重要性の認識
成果物	「もしもの時の災害時協力井戸・湧水マップ108」地域用とリーフレット形式の2種類

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム②】

タイトル	Let's TRY 防災ボランティア！ 地域の水場探しと水場清掃活動、意識調査と啓発活動推進のボランティア
実施月日(曜日)	6月と夏休み
実施場所	公民館、秦野市保健福祉センター
担当者または講師	団体内スタッフ:11名 外部スタッフ:はだの市民活動団体連絡協議会、秦野市市民自治振興課
所要時間または「コマ数×単位時間」	6/13=4h 7/3,7/23=各 6h 8/21,22=各 5h
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、防災意識を高める、防災・減災に取り組んでもらえる後継者作り
達成目標	青少年からの防災教育で、生涯にわたり、防災を実践できる市民として防災・減災に取り組んでもらえる後継者作り。
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	5/5, 6/26,7/3 市内の中学校、高校に防災ボランティア募集 はだの市民活動団体連絡協議会の協力で56名応募 防災ボランティアとして活動行事は、 6/13 防災講習会「家庭での生活用水の確保」 7/3 地域の水場探しと水場清掃活動 7/23 水源地探検「調べてみよう秦野の水」河川・水場清掃活動 8/21,22 ジャスコ秦野店にて防災や水に対する意識調査と啓発活動 実習「お風呂の水を利用してビニール袋でご飯を炊こう」
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	なでしこ防災ネット活動内容 展示ブース ボランティア募集ポスター ボランティア内容(行事、スケジュール、役割など詳細) 受付名簿 参加日程の調整 マイク、ビデオ、デジタルカメラ、防災教育チャレンジプランののぼり旗
参加人数	中学生、高校生防災ボランティア 80名と市民 3,620人参加
経費の総額・内訳概要	コピー用紙、コピー代、印刷代など= 2万円
成果と課題	【成果】ボランティアに参加して防災に興味・関心をもってもらった。 【課題】より多くの中学校、高校に防災ボランティアへの参加を呼び掛ける
成果物	実践風景CD作成

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム③】

タイトル	災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊の結成 (非常時に使用可能な井戸・湧水の状況調査)
実施月日(曜日)	4月～10月
実施場所	秦野市内
担当者または講師	担当者:会員11名、行政、連携12団体、秦野市立西中学校7名 案内役:郵便局OB
所要時間または「コマ数×単位時間」	4月～8月1回/月×3h=15h 9月～10月4回/月×8h=64h
プログラムのカテゴリ、形式	災害時協力井戸・湧水・水場の現況調査
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり、災害に強い地域をつくる
達成目標	災害時の水の確保「湧水・井戸」防災マップ作成に取り組むことによって、地域との連携が更に深まり、地域とともに非常時の生活用水対策を構築して災害に強い街づくりに役立てる。
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊の結成 情報収集、意識調査、協力依頼 PR 活動 井戸・湧水所有者に協力依頼事前通知郵送 回答がきた119件のリスト作成 地図落とし 災害時における井戸・湧水協力者一覧表作成 非常時に使用可能な井戸・湧水の状況調査119件訪問(協力は108件)
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	中学校、高等学校、地域、連携団体、市役所等に協力依頼 ルート確認、道案内や車の手配、調査人数の確認 使用状況と位置確認、写真撮影、 災害時における井戸・湧水協力者一覧表、地図、デジタルカメラ
参加人数	60名
経費の総額・内訳概要	現地調査交通費、謝礼、コピー用紙、コピー代、印刷代、写真代など約8万円
成果と課題	【成果】「災害時における水」への関心と対策を誘発できた。 【課題】水質保全・水脈保全活動の推進
成果物	実践活動 写真集作成

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 【実践プログラム④】

タイトル	障害者向けの触地図、点訳「災害時協力井戸・湧水マップ」の作成 防災講演会の手話通訳録画・録音DVD
実施月日（曜日）	1月～2月
実施場所	公民館、秦野市保健福祉センター
担当者または講師	作成：秦野市点訳奉仕団、手をつなぐ育成会、自閉症児者親の会 手話：秦野市
所要時間または 「コマ数×単位時間」	11月2回/月×1h=2h 12月～1月8回/月×4h=64h
プログラムの カテゴリ、形式	触地図、点訳と手話通訳録画・録音DVD作成
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり、災害に強い地域をつくる
達成目標	単に防災の意識向上だけでなく、障がいの理解や接し方、地域のつながり など多くの学ぶべきことを自然な形で吸収する。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	視覚障害者と晴眼者が一緒に「災害時協力井戸・湧水」の現況調査をする 点訳、立体コピーにより完成した触地図 1/15 講演「得意技活かし防災力を高めよう」手話通訳録画・録音をD VD編集する。 希望者に配布する。防災の普及促進につなげる。
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	秦野市点訳奉仕団、手をつなぐ育成会、自閉症児者親の会、秦野市と の打合せ ボランティアの募集 ルート確認、道案内や車の手配、調査人数の確認 調査用地図、ビデオ、
参加人数	触地図作成費 約1万円
経費の総額・内訳概要	謝礼、点字用紙、DVD、
成果と課題	【成果】視覚障害者にどのような情報が必要であるのかが少し理解できた。 【課題】視覚障害当事者の居住地域での災害時協力井戸の場所確認
成果物	視覚障害者用触地図 点訳 防災講演会の手話通訳録画・録音DVD

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑤】

タイトル	防災講演会 「災害時協力井戸・湧水マップ」の展示
実施月日（曜日）	2010年1月15日（土）13:30～16:00
実施場所	秦野市文化会館 小ホール
担当者または講師	共催：秦野市、秦野市危険物安全協会、なでしこ防災ネット 講師：中川 和之 氏（時事通信 web 編集長）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	9月～11月1回/月×2h=6h 12月～1月3回/月×2h=6h
プログラムの カテゴリ、形式	講演会・シンポジウム
活動目的	防災に関する知識を深める、防災意識を高める、防災に役立つ資料・ 材料づくり
達成目標	「災害時協力井戸・湧水マップ」の紹介と意見聴衆 防災講演会の手話通訳録画・録音
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話通訳付</li> <li>・講演「得意技活かし防災力を高めよう」</li> <li>・自主防災会事例発表「おおね台団地の災害時要援護者への対応」</li> <li>・なでしこ防災ネットの防災啓発活動展示コーナー 「災害時協力井戸・湧水マップ」の紹介と意見聴衆 点字マップ・点字防災資料の紹介</li> <li>・地域防災相談員 防災劇「倒壊家屋からの救出救助～隣近所の助け合い～」</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示物準備、「災害時協力井戸・湧水マップ」展示用</li> <li>・資料作成、手話通訳依頼2名、録音・手話通訳録画編集依頼・ビデオ・ 三脚・ビデオテープ3本・DVD10・デッキ、アンケート</li> <li>・防災マップ両面印刷500部、点訳10部・</li> <li>・防災教育チャレンジプランののぼり旗</li> </ul>
参加人数	340名
経費の総額・内訳概要	謝礼、印刷・コピー代金、プリントカートリッジ、DVD、模造紙、ボード、ディス プレイ用品、写真、会場費、事務用品など約15万
成果と課題	【成果】参加者から防災マップに対する感想や意見の収集ができた 【課題】障害者の参加の促進
成果物	手話通訳録画、録音テープ、アンケート

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑥】

タイトル	フィールドワーク 地域の水場探しと水場清掃、湧水地・浄水場・取水地の見学会
実施月日(曜日)	6月～11月
実施場所	秦野市
担当者または講師	講師:はだの観光ボランティア、水道局 担当:災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊、中学生高校生ボランティア
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～15:00 7/3,7/23,11/18,11/23,12/8=5h×5回=25h
プログラムの カテゴリ、形式	体験学習
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、防災に役立つ資料・材料づくり、 災害に強い地域をつくる
達成目標	調査資料をもとに、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことの 重要性や水資源環境の保護や維持する意識への学習会
実践方法・進め方 (箇条書き、または フロー)	災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊＝準備、進行、引率 はだの観光ボランティア＝コースの説明、案内、内容説明 集合 10:00 昼食 12:00 各自持参(飲み物、弁当、タオル、帽子) 解散 15:00 反省会
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	ボランティア保健に加入(スタッフ全員) 水道局＝ペットボトルの水 500cc、ゴミ袋、資料の提供 前日に参加者・ボランティアに当日の服装と出欠確認 救急用具、水、デジタルカメラ、アンケート 防災教育チャレンジプランののぼり旗
参加人数	164人
経費の総額・内訳概要	救急用具、水、デジタルカメラ、写真代など＝1万円
成果と課題	【成果】防災教育のみならず、水資源の重要性や地域の水環境を理解させることは、環境を保護する意識醸成ためにも有効。 【課題】スタッフと参加者の区別がつきにくい。ユニホームが欲しい。
成果物	実践活動 写真、アンケート

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

## 【実践プログラム⑦】

タイトル	「地下水を考えるワークショップ」全2回開催
実施月日(曜日)	12/12、1/22
実施場所	公民館、保健福祉センター
担当者または講師	講師:小川 宏(神奈川県技術士会前会長) 担当:災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊、中学生・高校生ボランティア
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～16:00 各3h
プログラムのカテゴリ、形式	体験学習
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、防災意識を高める
達成目標	「地下水利用の現状と災害時利用の可能性」 「家庭での生活用水の確保」
実践方法・進め方(箇条書き、またはフロー)	講義 「家庭での生活用水の確保」 「地下水を育む秦野盆地の地下構造」 「うまい水、まずい水、非常時の水」 講義後ワークショップ 「地下水がもたらす恩恵」 地下水保全「みんなで地下水を守ろう」 グループ発表 反省会
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	資料は講師が準備 災害時協力井戸・湧水・水場 発見隊＝準備、進行 講師 送迎小田急秦野駅まで 防災教育チャレンジプランののぼり旗、看板、水差し、おしぼりセット、演題プロジェクター、スクリーン、ケーブル、延長コード、ワイヤレスマイク
参加人数	76人
経費の総額・内訳概要	謝礼、コピー代、印刷代、模造紙、マジックなど 3万円
成果と課題	【成果】防災教育のみならず、環境教育にもつながった。 【課題】保全活動の推進
成果物	実践活動 写真、アンケート

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動資金を最小限に、最大の効果を得るために多くの団体、行政と協働で開催したが、経費を低くできるメリットだけでなく、地域との繋がりが強くなることが確信できた。</li> <li>・不足する力を補い合う「お互いさま関係」が自分たちでは出来ないような活動も可能にするパワーになった。</li> <li>・防災というジャンルに面白さを取り入れることの必要性を実感。</li> <li>・連携団体から提案などを受けた時「どんな内容でも一度は全部聞く」。そして、その場で直ぐに返答はせずに会に持ち帰り、全員で検討して対応を考えた。</li> <li>・地域への事前連絡や調整は、地域のお祭り・イベント、学校行事等のスケジュールを把握しておき、それに合わせて協力や連携を提案すれば、受け入れられやすい。</li> </ul>
<p><b>準備活動で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湧水群非常時活用マップを以前から協働で作成する予定だった高校が、担当の先生の異動で、協働で出来なくなってしまい、ボランティアを募集した。</li> <li>・低予算で楽しみながら行うことができる行事の開発と進行</li> <li>・一つの活動が多くの意識を産み育てていくための関係性</li> <li>・ボランティアが必ず「できる」「できた」という実感を得るための準備</li> <li>・ボランティアに参加した生徒一人一人にボランティアカードをはだの市民活動団体連絡協議会から発行してもらい、学校を通して担任から生徒に渡してもらったことにより、学校も生徒の活動の様子がわかり、学校側からの協力も受けられた。</li> <li>・6～8月に行ったフィールドワークには、はだの市民活動団体連絡協議会のボランティア募集の呼び掛けで、数多くの中学生や高校生がボランティアとして参加してくれた。活動写真と報告書を学校に届けたところ、中学生達が活動の最終報告会に出られるように配慮するなど、学校側の協力も得られた。</li> <li>・郵便局のOBから、市内に点在する井戸を効率よく回れるルートアドバイスをもらった。</li> <li>・秦野市から、調査で訪問する旨の通知を事前に郵送したことで、訪問先でも警戒されずスムーズに調査を行うことができた。</li> </ul>
<p><b>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者と晴眼者が一緒に「災害時協力井戸・湧水」の現況調査をしたが、単に防災の意識向上だけでなく、障がいの理解や接し方、地域のつながりなど多くの学ぶべきことを自然な形で吸収できた。</li> <li>・記録的な猛暑や台風シーズンの雨風にも負けず、現況調査を続行。</li> <li>・現地調査の交通費が公共のバス路線を利用したので予算がかなりオーバーした。車も手配したが参加人数が多かったため徒歩で調査が出来る範囲のルートで回るよう工夫した。</li> <li>・参加が自由参加であるために人数把握と資料等の準備が大変であった。</li> <li>・仕事の合間をみてもからの活動で資料作成、報告書、発表、成果物の作成と多忙な1年でした。</li> <li>・防災士として新しい知識の習得、技能の向上など、スキルアップを図り、防災講演、実習活動を他の団体とお互いの得意分野で協力し合って行事を推進した。</li> <li>・1団体だけでプラン実行するのは準備、参加者募集も大変だが、2～3団体で協力して開催すると参加者も多層、講師依頼も団体の仲間から相互協力、お互いフォローしあいがらの実践でした。</li> </ul>

# 防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゅ ら ん 最 終 報 告 書

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	秦野市立西中学校  岡山県立岡山一宮高等学校 秦野市立北中学校 神奈川県立秦野総合高等学校	現地調査、マップ作成、イベント 湧水、河川清掃、意識調査、見学会 マップ作成 湧水、河川清掃、意識調査、見学会 湧水、河川清掃、意識調査、見学会
保護者・ PTAの組織		
地域組織	自主防災会 秦野市地域防災相談員 はだの市民活動団体連絡協議会 こども会	防災講演会の共催 防災講演会の共催 ボランティアカード発行と募集 湧水、河川清掃、意識調査、見学会
国・地方公共団体・ 公共施設	秦野市役所くらし安全部防災課、  市民自治振興課 水道局  環境保全課  かながわ県民活動サポートセンター	現地調査訪問の事前通知郵送 防災講演会の共催 防災用品借用 アルファー米の提供 災害時協力井戸マップ作成 ボランティアカード発行と募集 相談 湧水地、浄水場、取水地見学会の共催 ゴミ袋 ペットボトル水 資料提供 秦野盆地の地下構造、水循環、保 全などの資料提供 活動内容PR、取材
企業・ 産業関連の組合等	郵便局のOB  秦野市危険物安全協会	市内に点在する井戸を効率よく回 れるルートのアドバイスと案内、車 の運転。 災害時協力井戸マップ作成 防災講演会の共催
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	日本防災士会、コミュニティ保育さわやかさ さん、かながわのあすを築く生活運動協議 会、里地里山を育む会、NPO 法人みきフ レンド、あぐりスクールはだの、グリーンコミュニ ケーション、おだわら輝く女性のネットワーク、和の 会、手話サークル、手をつなぐ育成会、 自閉症児者親の会、PPKクラブ、秦野 市点訳奉仕団	災害時協力井戸マップ作成 湧水、河川清掃、意識調査、見学会 ワークショップ フィールドワーク  手話通訳録画・録音とDVD編集 触図、点訳・点字製本
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もしもの時の災害時協力井戸・湧水マップ」ができた。</li> <li>1/15 の防災講演会時に参加者の声を防災マップに反映しようと公開したところ、登録件数が少ない幾つかの自治会が「水」対策を真剣に協議検討するようになった。問題点の明確化やその解決方法の検討や対策を地域住民が本格的に開始したことは予想以上の展開となった。</li> <li>・参加者から新たに災害時協力井戸に登録申請が3件あった。</li> <li>・中高生がボランティアとして水に対する意識調査、見学会、井戸・湧水現地訪問調査に80名参加してくれた。</li> <li>回を重ねるうちに受け身ではなく、積極的に考え、地域へ自主的に働きかけるように成長した。</li> <li>地域への理解も深まり、防災教育のみならず、環境教育にもつながった。</li> <li>・本事業をすすめることにより、より広域の地区との連携も構築され、多くの中高生に防災への意識・関心が生まれ、生徒自身が、災害発生時に共助の担い手となることへの意識付けができた。</li> <li>・地域や行政、専門家との連携は、一度繋がりができるとその繋がりがさらに広がっていくことがわかった。</li> <li>・災害ばかりでなく、恵みを学ぶことで、防災への取り組みが変わることがわかった。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p><b>反省</b> 108 件の写真撮影を全部同じ横撮りにしたほうが見やすかった。</p> <p><b>感想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震等災害発生時には、水道施設の代替として地下水、湧水、井戸水の活用は極めて有効であるが、個人情報保護や非協力者への説得など多くの困難があった。</li> <li>・はだの市民活動団体連絡協議会の協力で中学生のボランティアが大勢参加してくれ、井戸、湧水調査に積極的に協力を申し出てくれたことはプラン推進する中で、嬉しかったことです。</li> <li>・秦野市立西中学校が協力してくれることになり、湧水地の見学会、「上水道のしくみ」水場・取水地見学会などにボランティアとして参加した中学生は80名。そのうちの7名が湧水・井戸水調査に協力してくれることになった。また、道案内や車の運転など、地域の方々からも協力の申し出があった。協力者も増え、地域で受け入れられてきた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <p>これまでの基本的な地域防災活動も大切に、活かしながら、新しい時代の地域防災に取り組み、共有・活用できる情報を増やす。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も活動を継続するとともに、災害時協力井戸・湧水の場所がわかるように「災害時協力井戸湧水の家」の看板設置運動や保全活動を継続する。</li> <li>防災意識の普及啓発活動も推進する。</li> <li>・完成したマップは次年度以降の出前講座などの行事開催時に活用、市や他団体に活用依頼、市内外へPRして、防災意識の啓発、家庭での備えなどに結びつけていく。</li> <li>・地域や行政、学校、専門家とのつながりを大切にして活動を広げていく。</li> </ul>

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ①

### 生活に必要な災害時の水の確保「災害時協力井戸・湧水現況調査方法」

震災等による水道の断水時における飲用水の給水対策として、市町村では緊急貯水槽や市町村相互連絡管の設置等を講じているが、災害時には飲用水以外の洗濯やトイレ等の生活用水を十分確保できないことも考えられる。この MAP は、災害時に生活用水として提供される井戸を登録し、地域へ情報提供を行うことにより、災害時における市民の生活用水の確保及び公衆衛生の維持を図ることを目的とする。

### 災害時における井戸、湧水などの協力者調査

<p><b>現状</b></p> <p>①湧水 約50か所</p> <p>②井戸 H9年 秦野市全体243件中 173件協力井戸として登録 (条例で井戸設置を禁止)</p> <p>H10年 119件登録</p> <p>H22年 108件登録</p>	<p><b>調査方法</b></p> <p>①秦野市から調査依頼を郵送</p> <p>②協力者一覧表の作成(秦野市)</p> <p>③地図におとし</p> <p>④日程調整</p> <p>⑤中学生ボランティアと一緒に 所有者又は管理者宅へ訪問</p> <p>⑥位置確認と写真撮影</p> <p>⑦地図に位置と写真貼付</p>
--	--

<p><b>調査内容</b></p> <p>①型式 電動ポンプ式(停電時可・停電時不可) 手動ポンプ、汲み上げ式</p> <p>②水勢 良好、少量、枯渇、不明</p> <p>③状況 1 生活用水 2 飲料水と生活用水 3 使用していない</p> <p>④協力 ● ▲ ×</p> <p>⑤位置の確認と写真撮影</p>	<p style="color: yellow; font-weight: bold;">秦野各地の水循環</p> 
--	---

### 災害協力井戸とは？

市民や企業の方々が所有する井戸を事前に登録してもらい、災害時に水道施設が復旧するまでの間、ご近所の方々に開放していただき、生活用水を確保しようとするものです。

**災害協力井戸を気持ちよくお使いになっていただくために、以下の事項をお守りください。**

- ①災害時には井戸水の水質に変化が生じることもあるため、飲用ではなく、あくまで生活用水として使用し、使用用途には充分ご注意ください。
- ②災害協力井戸の使用は、災害が発生し、水道が断水となった際に限られ、井戸水の提供を受ける際には提供者の指示に従って下さい。
- ③井戸水の水量には限度があるため、特定の個人に対して多量に提供することはできません。
- ④停電等、災害により井戸が利用できない場合があります。
- ⑤井戸水の提供は提供者の善意により行われているものであり、提供についての義務は負うものではありません。

**ご家庭の井戸を災害時に活用させて下さい**  
～災害時協力井戸の登録を～

今後は、災害時協力井戸・湧水の場合がわかるように「災害時協力井戸湧水の家」の看板設置運動や保全活動を継続する。

・災害ばかりでなく、恵みを学ぶことで、防災への取り組みを考える。

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 —成果物—

### (1) 災害時協力井戸・湧水マップ(地域用)



井戸湧水の場所を表示した地図

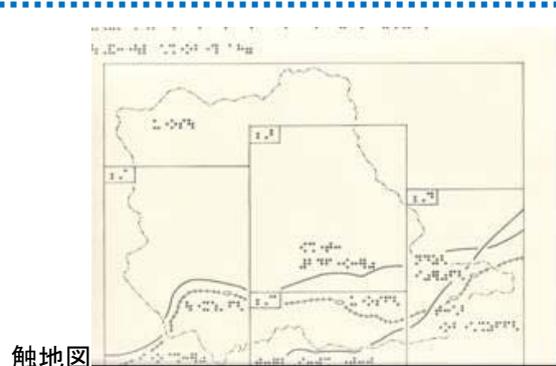


井戸・湧水の写真と災害時協力井戸利用方法

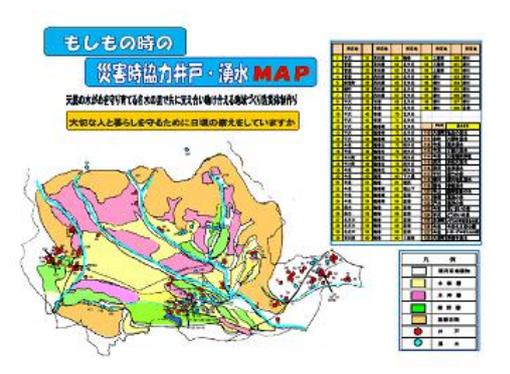
### (2) 災害時協力井戸・湧水マップ(リーフレット形式)



裏面は手書きの井戸湧水の場所を表示した地図



触地図



「得意技活かし防災力を高めよう」手話通訳録画・録音をDVD

水についての意識調査アンケートはジャスコ秦野店で7日間276枚、市民の日250枚イベント開催7回181枚回答がありました。只今集計中です。



マップ作成会議



12/14 水道局で勉強会



秦野の水当てクイズ(浄水場にて)

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 8. 自由記述欄 ③



6/13 家庭での生活用水の確保



7/23 水源地探検調べてみよう秦野の水



7/3 湧水地の見学会



湧水地、水場清掃



河川ゴミ拾い



11/18 室川源流・湧水探しと水場清掃



1/15 秦野盆地湧水群非常時活用マップ展示 講演会時 配付



11/29 プランの進め方＝中川和之氏



10/24 井戸現況調査



8/21,22 ジャスコ秦野店 意識調査とPR  
お風呂の水を使ってビニール袋炊飯講習



6/26,7/3 中・高生ボランティア募集の様子



8/21,22 災害用プライベートルーム組立て



ロープワーク



AEDの講習